

## 「そのままが良い」 マルコによる福音書 14 章 3 節～9 節

4 月になって、年度も改まりました。保育園や教会などに携わっていると、お正月よりもこの 4 月の年度替わりの方が気持ちが改まるというか、これからの一年を思って、楽しみになったり不安になったりするものです。ここ数年は新型コロナウイルスの感染拡大などもあって、落ち着いて新年度を迎えることが難しい状況でしたが、そんなこちらの都合とは関係なく 4 月になれば桜が咲いて、木々が芽吹きます。わたし達は自分のリズムが乱れると神経質になってしまいますが、決して変わることの無いこの世界にもっと信頼して生きていって良いのでは無いかと思います。

そういうわたしも、4 月 1 日に友人からひいきにしているプロ野球チームが、優勝しておめでとうございます。というメールをもらって、何訳の分からないこと言い出して、どうかしちゃったのかと思ったのですが、「4 月 1 日です。」という追伸をもらって、そうかエイプリルフールかとそんな余裕を無くしていたことを、思い知らされたものです。やっぱり、人間余裕を持っていないと良い考えも生まれなないと、改めて思い知らされました。

さて今朝の聖書の箇所はベタニアでの出来事とされています。ベタニアというのは、エルサレム近郊の町でそこにはラザロの墓があって、マリアとマルタの姉妹が住んでいたことが知られています。そしてイエス様はエルサレム滞在中はこのマリアとマルタの家に泊まって過ごしていたらしいです。キリスト教を批判する人達の中には、この事からどうやらイエス様はこの姉妹のどちらかと恋人のような関係にあって、その間に子どももいてその子孫が現代まで生き残っていて、その事実を知るもの達が教会の勢力を使ってこの世界を陰で操っている。などと言うことを言っている人もいますが。これはもう全く根拠の無いことでもありますし、イエス様の周りには弟子たちが大勢付き従っていましたがそんなプライベートなことにかかわらずらっている暇は無かったというのが現実でしょう。

それでも、ここには「重い皮膚病のシモン」という人物が出てきますが、このシモンという人物がどのような人物であったか、今のわたし達には知るよしもありませんが、この物語を伝えた人々少なくとも初期の教会のメンバーにとっては、旧知の人物であったことは確かなようです。その重い皮膚病を患っていたシモンの家でイエス様が食事をとっていたと言うことは、イエスが重い皮膚病を患っていた人。つまり罪人とされていた人と交際するどころか、その家に行って食事を共にする、そんな人物だった事を象徴的に現しています。

そしてこのベタニアという町は、新井栄子先生によれば「風下の町」と言っ

て、エルサレムの風下に当たり重い皮膚病の人とか、外国人や寄留者、また犯罪を犯した人などエルサレムに住むことが許されない人達が住んでいた場所であったと、そんなところを定宿に選びました。イエス様は敢えてそうされたというか、そんなところにこそイエス様を支持する人達が居たという事実、それが大切なんだといわれていたことを思い出します。

強いて言えば、この食事の場に集まったのはシモンもそうですけれど、みんな、エルサレム神殿に詣でて当たり前に生活している者たちから見れば、汚れた者たち罪人であり、みんなすねに傷を持ったような人達だったのです。

そこで一人の女性が、持っていたナルドの香油の入った石膏の壺を壊して、香油をイエス様の頭に注ぎかけたのです。

それは、一同にとって驚きの行為だったようです。何しろ 300 デナリと言え、一般人の年収にも値するような額です。それを、一気にイエス様に注いってしまったのですから、見ている方が驚くのは仕方ないと思います。しかし、この女性にしてみれば、イエス様のように周りの人達からは尊敬され、偉大な奇跡を起こして人々を助けておられる方が、わたし達のような者たちの所へ来て滞在され、食事を共にして下さっている。その出来事は何物にも代えがたい大きな出来事であり、その喜び感激を現すには何を献げてもかまわないという気持ちだったのでは無いでしょうか。理屈では無いのです。

しかし、そこにいた何人かの人達は憤慨して、互いにこの香油を高く売って、貧しい人達に施せば良かったのに、なんて無駄遣いをして勿体ない。と言い出したのです。加えて「彼女を厳しくとがめた」とありますので、かなりきつい口調だったのでしょう。「いきり立って」と訳している聖書もあります。

その理由は、「売ってますし異人に施すことが出来たのに」ということです。敬虔なユダヤ人は貧しい人に施しをすることを特に美德として誇りにしていました。この場に集まっていた人達にはあまり敬虔な人はいなかったと思われるから、この人達だってそれをしていたかどうかは怪しいところです。でも、人のことと思えば正論を振りかざして非難してしまうのが人間なのかも知れません。こういうことはよくあることだと思います。

誰かが、今で言えばウクライナで避難を余儀なくされている人達のために献金すると言えば、そんな外国の人のためでは無く、国内だって貧しく生活に困窮している人沢山いるじゃ無いか、そっちはほっておくのか。そんなことはよく言われることです。じゃああなたがすれば良いじゃ無いかと言えば、そんなこという本人は何処にも献金しないというのが、相場なんです。

このひとたちが 300 デナリオン持っていたからと言って、貧しい人達のために献げるかと言えば、それは怪しいものです。出来ないからこそ、こんなに激

しくその行いをとがめたというのが、本当のところだと思います。自分が出来ないことを人がしてるのを見るとねたましくなって、許しておけないのが人間なのかも知れません。

だから、7節の「貧しい人々は、何時もあなた方と一緒にいるからしたいときに良いことをしてやれる」と、そんなこと言っている暇があったらあなたたちが先にしてやりなさいと、自分を省みることを教えているのかも知れません。

でも、今しか出来ないこともあります。その時こそ持てる全てを遣いきるときでもあるのだと思います。先週は、エルサレム神殿で2レプトン持っている全てを献げた、やもめの箇所を読みました。彼女も、今ここで持っている全てを献げたのです。わずかしか献げることが出来なくても、そのわずかな小さな出来事に心を止めて下さす神に全てを献げ期待することが出来たのです。イエス様はその金額とか、心情とかでは無く今できる精一杯のことを自ら行ったことを褒められたのです。

それはここでもおなじです。金額は雲泥の差です。今できる限りのことをした。そのことにおいて差は無いのです。だから、どんな小さな事でも自信を持って、そしてもしかすると周りが驚いてしまうようなそんなことをするときでも躊躇せずに、あなたの思うところを行いなさいそれで良いのだと、そう語っておられるのです。

「するままにさせておきなさい」これは、つつい他人のことに干渉したくなるわたし達にとって、大切な言葉だと思います。良い事をしていても、つい口を挟みたくくなります。イエス様は聖書の中で、何回かこう言われます。イエス様の名を使って悪霊を追い出しているものたちを、弟子たちがやめさせようとしたときにも、「したいようにさせておきなさい、わたしの名において悪霊を追い出してにおいて、後で悪口を言えないだろう」と言われます。わたし達はつつい他人の言動や行状に気が散って、自分を客観的に見ることが出来ない者ですが、イエス様はそんなわたし達に他人と比べるのでは無く、今のあなたのままでそのままで、為すべき事を為しなさいとこのわたし達の全てを受け止めて下さった上で、そう語って下さっているのです。

本当の良い行いは、この現実の世界で役立つか役立たないかでは無く、霊的な世界来生につながるものです。イエス様は、神が愛であることを教えられました。神の愛を身にしみて味わい知ることが、神との交わりに入ることであり、信仰を頂いたことです。その神の愛に応える、この女性は周囲から「無駄遣い」とののしられても、今、十字架を前にして不安と恐怖に押しつぶされそうなイエス様に香油を注ぎ、その温かな心で慰め喜びの場を用意したのです。

十字架を見つめておられたイエス様は、それを葬りの準備と解して心より喜

ばれました。わたし達も、常にこの女性の心を自分の心として、それぞれの場においてイエス・キリストに最善を尽くす者となりたい者であります。

祈り愛する天の神よ御名を讃美いたします。4月を迎え社会は新しい年度を迎えました。この時進学や就職で新しい門出を迎える若い人達、また子ども達を守り導いて下さい。特に保育園からも卒園を迎えた子ども達は新たな学校へと旅立っていきました。今までに無い経験をしてまたそれだけ大きな喜びや、苦しみもあると思います。でもどんなときでも愛であるあなたが、共にいて下さり、励まして下さっていることを忘れることが無いように守って下さい。

また、島村めぐみ保育園もあなたが守り導いて下さい。新しい園児が与えられ、安定した保育が続けられますように。何よりも、新型コロナウイルスの感染拡大の中にあっても、みんなが守られたとえ感染したとしても、重症化した入院したりせずに済みますようにお守り下さい。

神様、今わたし達はレントの時を過ごしています。どんなときも主のみ苦しみを思い、自分自身の欲望や望みを棄てていかなければならないのに、それが出来ていません。そのため、世界では戦いが絶えること無く戦渦は広がり、ウクライナとロシアの戦争は停戦の気配がありません。どうか、これ以上両国の若者達が殺し合うことが無いように守って下さい。どうか、わたし達人間には不可能なことでも、イエス・キリストを復活させた主のみ力によって、両国とも武器を置く勇気と希望をお与え下さい。

本当に、意味のない戦いを繰り返してしまう、わたし達です。本当は愚かなことだと分かっている、それを繰り返してしまいます。どうか、この罪を悔い改め、この世界に本当の平和が訪れるようにすべての民が祈ることが出来るようにして下さい。

この日本の国のために祈ります。神様日本政府は今本当に取り組まなければならない、新型コロナウイルスの感染拡大をとめる対策よりも、夏の選挙に向けて有権者の歓心を買う政策を繰り返し行おうとしています。そのために、新型コロナウイルスの再拡大も噂されています。どうか、この国の政府が自公両党の等益、また個人の利益だけを求めるのでは無く、本当に国民全てのために政治を行っていくことが出来るように導いて下さい。

どうか、この国がその国是とする平和主義と、戦争放棄の精神を変えてしまうことが無いように守って下さい。

そしてこの平和を願う私たちの祈りと行動が、必ず実を結び新しい世界を創ることが出来ると確信させて下さい。

この日本の教会伝道所のために祈ります。日本にある多くの教会伝道所は小

さく力無い教会が多くあります。どうか、そのために力を無くし手しまうのでは無く、それだからこそ主の恵みに支えられて福音伝送の働きを続けていくことが出来るように守って下さい。この教会もどうか、そんな共にある教会に励まされて、福音を伝える喜びを味わうことの出来るそんな教会として立つことができますように。

今日ここに集うことの出来ない、兄弟姉妹の祈りに合わせてこの祈りを愛する主、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン